

わくわくしようさ!~未来型図書館がやってくる~ (令和5年3月発行)



発行者: 小松市未来型図書館づくり推進チーム
〒923-8650 石川県小松市小馬出町 91 番地
電話番号: 0761-24-8042
メール: miraigata@city.komatsu.lg.jp

わくわく しようさ!

未来型図書館が
やってくる

小松市未来型図書館基本構想

【表紙のデザインについて】

市民のみなさんの未来型図書館に対する想いやアイデアを「積み木」に例え、それらが繋がりあったり、組み合わさったりすることで、さらなる可能性を広げていくことができる様子を表現しています。

【挿絵について】

つながるミーティングに参加いただいた公立小松大学国際文化交流学部の牧田彩伽さんに、妄想ストーリーの様子をもとに描いていただきました。参加いただいたの感想を伺いました。

Q1. つながるミーティングはいかがでしたか?

普段あまりお話しできない方々と話せる機会がいただけてとても楽しかったです。また、小松のみなさんの想いがたくさん垣間見れて興味深かったです。

Q2. 妄想ストーリーを描いてみていかがでしたか?

元々好きな絵を描くこと、みなさんの「こんな図書館になったらいいな」というわくわくした気持ちを合わせる貴重な体験ができた、人の想いを形にするよい経験がきました。ありがとうございました。



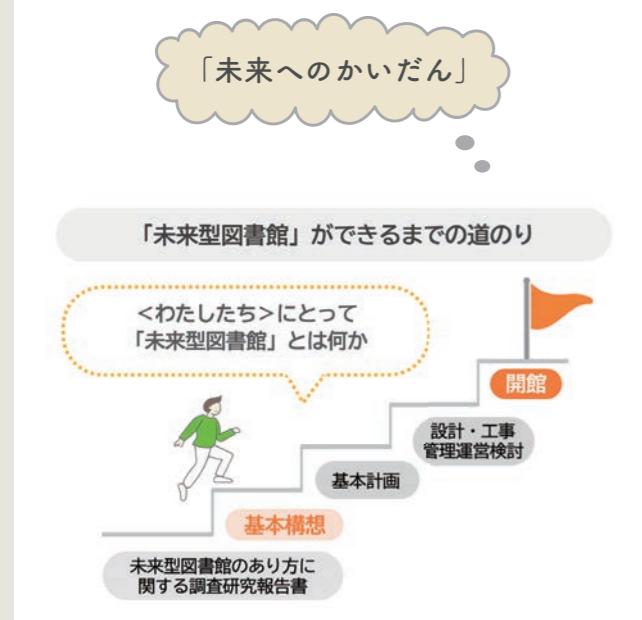
牧田彩伽さん



小松市では、令和3(2021)年度より「わくわくする未来型図書館」の実現に向け、「ともにつくる図書館をつくる」というテーマのもと、共創による様々な取り組みをスタートさせています。



施設整備の道のりのなかで、基本構想を策定した令和4(2022)年度は、「わたしたちにとって未来型図書館とは何か」を言語化するステップであると位置づけ、多様な方々とともに、未来型図書館についての検討と対話をやってきました。ここで検討した内容は、次のステップ、さらには開館、そしてその先へと着実につなげていきます。



「こまつのあした、あさって、しあさって
— 未来型図書館づくり第1章 —」



目次 / 挨拶	1
「つながるミーティング」について	2
地域資源マップについて	3
地域資源マップ	6
未来型図書館の方向性	22
妄想ストーリーについて	24
未来型図書館基本構想 概要版	30
この本の活用・展開について	34
事業スケジュール	34
あなたにとって未来型図書館とは?	35

第5回つながるミーティングでは、この本のタイトルをみなさんと一緒に考え、「わくわくしよう! ~未来型図書館がやってくる~」に決定しました。他のタイトル案については、この本のあちこちに散りばめていますので、是非、探してみてください!

タイトル案

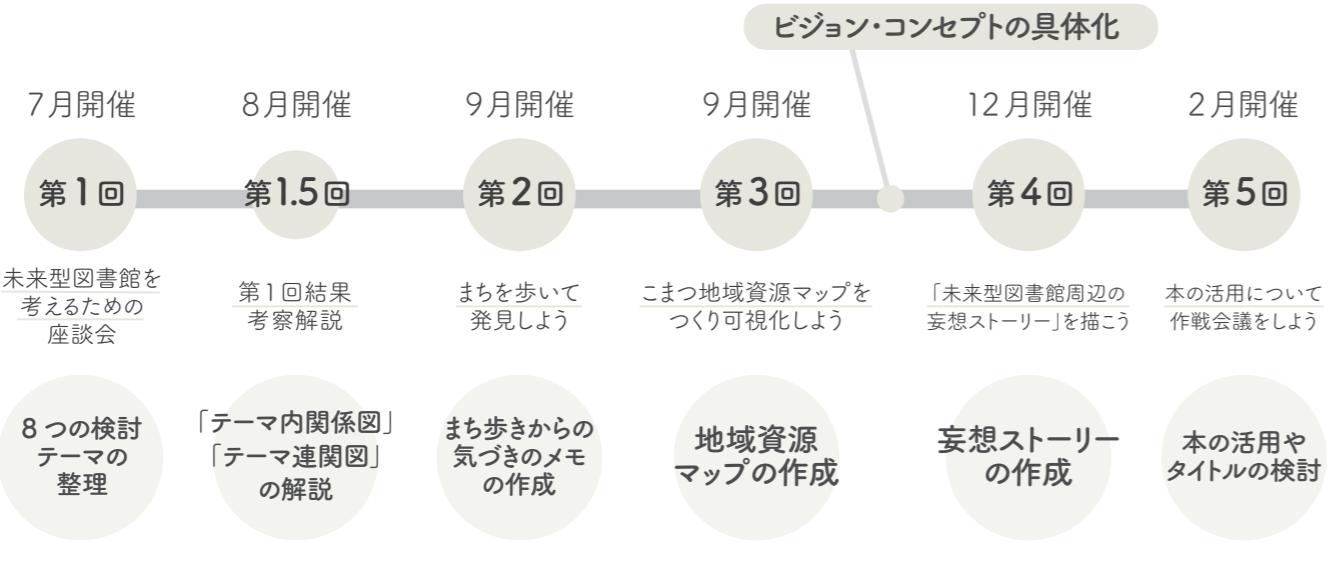
「つながるミーティング」について



未来型図書館ができることで、
まちや暮らしがどのように変わっていくのかという視点のもと、
対話やまち歩き、マップづくりや体験ストーリーを描きながら、
未来型図書館のビジョンやコンセプト、
想定される機能・サービスを具体化させてきました。

「TOMONI TSUKURU」

「つながるミーティング」の歩み



『わくわくしようさ！～未来型図書館がやってくる～』(この本)について

つながるミーティングの成果を、その先のステップにつなげていくために、対話と活動の記録としてこの本にまとめました。本のタイトルについても、市民のみなさんと共に考えたものです。未来型図書館づくりは、定義もないところからスタートしましたが、このつながるミーティングなどを通じて、ビジョンやコンセプトを言語化してきました。今後、さらなるステップに進んでいく中で、この本は「これまでどのようなプロセスを歩んでき

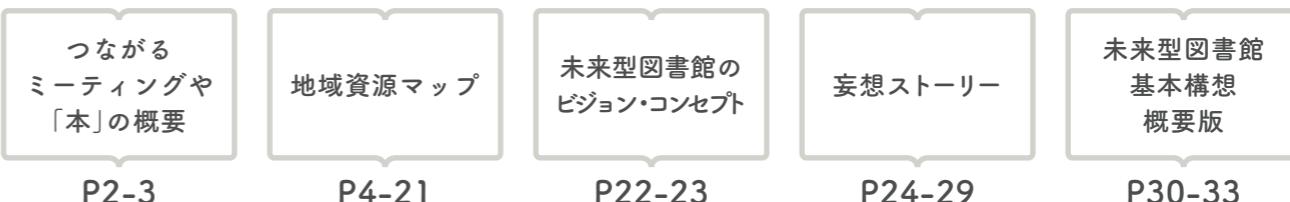
たか？」ということに立ち返るための大切なツールとなります。この本を活用しながら、多くの市民のみなさんとプロセスを共有し、未来型図書館づくりの輪を広げていきます。



『わくわくしようさ！～未来型図書館がやってくる～』の構成

この「本」では、未来型図書館づくりの概要や、つながるミーティングで市民のみなさんと一緒につくりってきた「地域資源マップ」と「妄想ストーリー」を取り纏めています。また、こうした「共創」の取り組み

から見えてきた、未来型図書館の方向性(ビジョン・コンセプトや想定される機能など)を収め、これまでの未来型図書館づくりの全体像をたどれるように構成しています。



P2-3 P4-21 P22-23 P24-29 P30-33

あなたとつくる未来のハナシ
こまつどーなるんけ？

よもっさ！～こまつの声～

地域資源マップについて

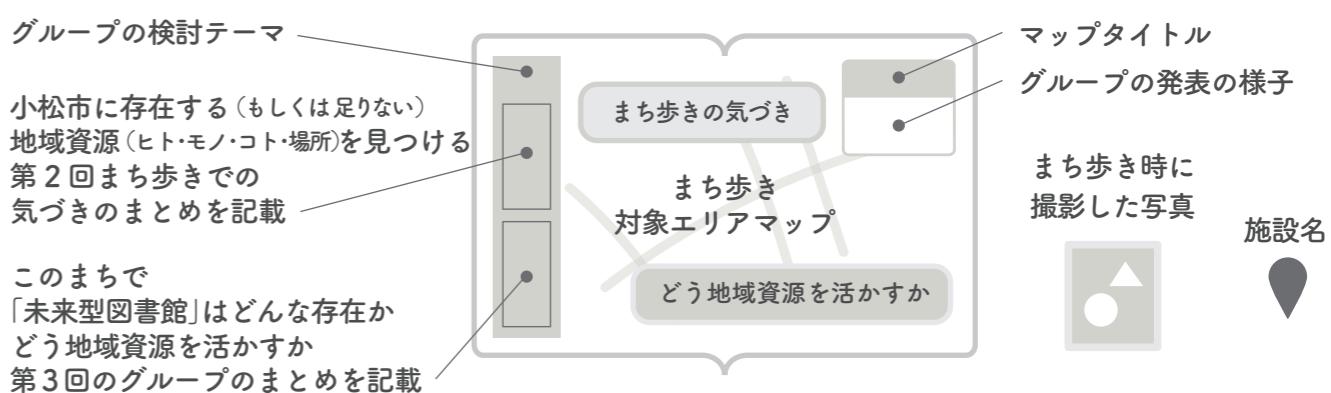
第1回つながるミーティングで見えてきた、未来型図書館を考えるうえで検討すべき8つのテーマと、第2回のまち歩きでの発見や気づきをもとに、第3回では各グループで地域資源マップを作成しました。

8つの検討テーマ

- | | | | |
|------------------|--------------------------|-----------------------------|------------------|
| 1 過ごし方、場・空間のあり方 | 2 小松を知る、小松を発信する(人、モノ、コト) | 3 本 × デジタル、情報の検索・探索 | 4 社会参加、課題発見・課題解決 |
| 5 情報をつくる、情報からつくる | 6 出会い、交流、つながり | 7 ダイバーシティ、インクルーシブ(多様性、社会包摂) | 8 新しいスタート、チャレンジ |

地域資源マップ凡例

各グループ1枚ずつのマップに、第1回から第3回の内容を以下のようにまとめています。レイアウトやテキスト、写真などできるだけグループでまとめたものを忠実に再現しました。



地域資源マップについて

第1回つながるミーティングで見えてきた、未来型図書館を考えるうえで検討すべき8つのテーマをもとに、地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)を探しにまち歩きにでかけました。まち歩きでの気づきや発見を地域資源マップとして、次ページから8グループ分まとめています。



小松市役所

芦城公園周辺に
カフェがあるといいな

フレキシブルな会議室

小松市立図書館（本館）

お寺など文化財が多い
観光に活かせないか？

小松市立博物館

芦城公園

りっぱなお寺が集まる通りは
重厚で魅力的

空とこども絵本館

子どもも大人も
くつろげるのがいい

情報を編集し
伝える手段が必要

本や情報、つながりの場が
まちじゅうにあると
エリアの価値が高まる

警察署だった絵本館は
とてもりっぱな外観

材木町など、歩いてみると
魅力的なまち並みが多い

宮本三郎美術館

観光客にもっと
おすすめしたい

石川県小松市團十郎芸術劇場 うらら

知りたいことを探したら
偶然に出会える情報

こまつ曳山交流館みよっさ

4 地域資源マップについて

令和5年3月発行 | わくわくしよう!~未来型図書館がやってくる~ | 小松市 5

過ごし方、
場・空間のあり方

テーマ

小松市に存在する（もしくは足りない）

地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩きの気づき

公共施設は数多くあるけれど、それぞれに連携が薄く、居場所としての魅力がわかりにくい。

何かコトが起きるような場にするためにも、またそれがつながるためにどんなハードやソフト（特に人）が必要かさらに考える必要がありそう。

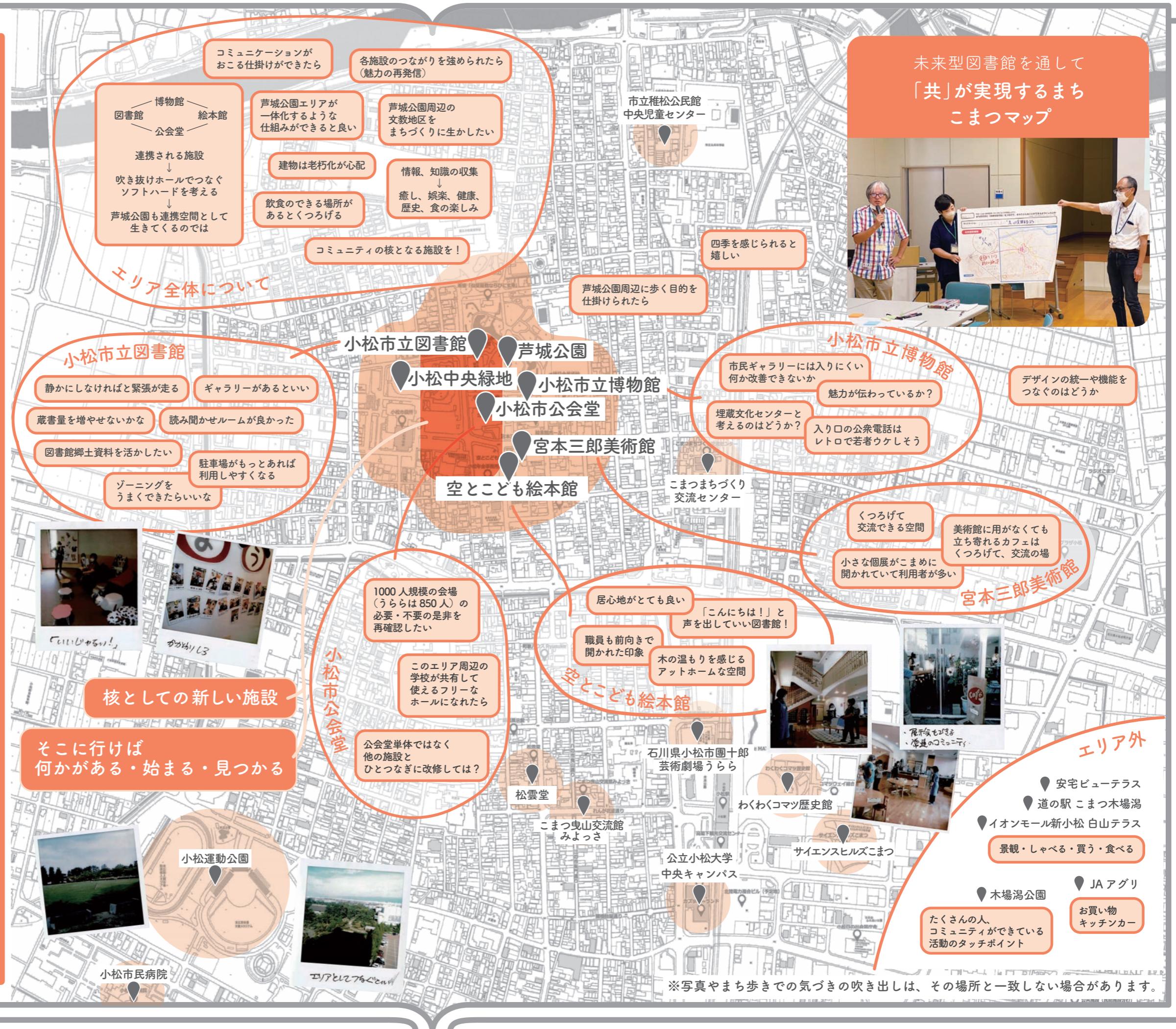
地域資源と未来型図書館を
つなげてどのようなことが
できるとよいか



核としての新しい施設

どう地域資源を活かすか

「核」としての新しい施設から、各施設をつないでいくことが大切。「核」「共」という言葉をキーワードとして、芦城公園中心の文教施設から派生し、小松の中心街や小松全体の様々なものと繋がりが出来上がっていくことをイメージしている。



小松市に存在する（もしくは足りない） 地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩きの気づき

東町の通り沿いには称名寺・勝光寺・勧帰寺等（寺町の方にも）、お寺がたくさん残っている。

アーケード内は人通りも少なく暗く寂しい印象だが、いくつか新しいお店の出店も見られた。

市役所周辺にはいろいろな施設が集まっているが、いずれも老朽化が進んでいる。小松の活性化には、駅前の中心商店街についても検討が必要。

中心市街地には歩いていける範囲に様々な施設が点在しているが、あまり知られていない。それぞれの繋がりが弱く、一体的な魅力の発信ができていないことが残念。

橋北地区（市役所周辺）には飲食店がない
まち歩きをしても人との出会いが少ない。

地域資源と未来型図書館をつなげてどのようなことができるといいか

ペットと一緒に楽しめる図書館 ドッグランで遊ばせながら 本を読む

カップルの データベース

読みたい本を ロボットが探してくれる

周りを気にせず
くつろげる場
(気軽な空間)

スイーツがある図書館

(オシリーワン)

どう地域資源を活かすか

図書館だけに人が集まるのではなく、ドッグランやカップルのデートスポットなど、図書館以外に目玉になるものがあり、まち全体がにぎわい目的地となるような施設をイメージしている。

ヒト・モノ・情報の マグネットに

飛行機を間近に！ (屋上から音を楽しむ)

飲食店・商店 まち歩きの目的となる場

昔城公園

市城公園はこれまで
いろんな施設が変遷してきた

昔、本屋さんはどこにあったのか

公園内施設の 老朽化が心配

未来型図書館を通して にぎわいが実現するまち こまつマップ



3 グループ

本 × デジタル、 情報の検索・探索

テーマ

小松市に存在する（もしくは足りない）
地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩きの気づき

公園内は歴史と緑があふれる空間、場所である。
図書館以外に「本」を手に取れる場所がわからない。

まちの情報が配置されてはいるがバラバラな
ためわかりにくい。

QRコードを読み取っても情報の中身が更新されて
いない。これでは情報として届かないのではないか。

公共施設の情報も施設の外ではあまり触れる
ことができず、中に入らないとどういう施設なの
か、どんな展示をしているのかがわからない。

情報を一元化するためにデジタル技術を活用
するとよいのではないか？

デジタルに触れたが触れられないシニアに
いかに伝えるかも課題となる。

まち（小松市）に関する情報を市民参加でつくる
とよいのではないか。

地域資源と未来型図書館を
つなげてどのようなことが
できるとよいか

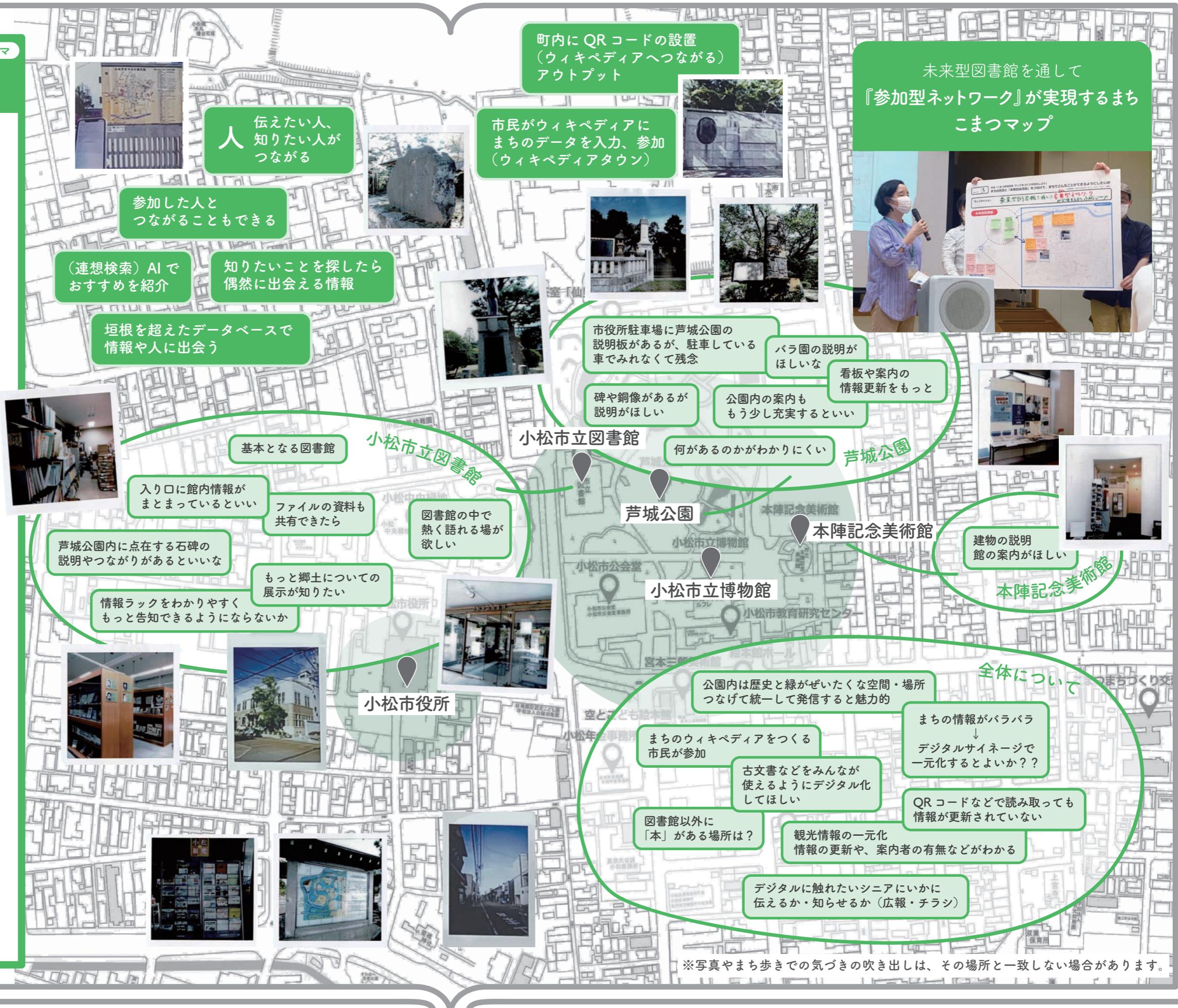
デジタルサイネージ
1枚地図で所在地がわかる（駅構内にあるような）

ウィキペディア編集のプログラム

連想検索システム
「この本を借りた人はこんな本を検索しています」

どう地域資源を活かすか

情報の垣根を超えるために、市民参加
による「ウィキペディアタウン」を開催する
とよいのではないか。また、「連想検索」
や「デジタルサイネージ・マップ」も整備で
きるとよい。こうした取り組みを通じて
市民参加型のネットワークへつなげたい。



小松市に存在する（もしくは足りない） 地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩きの気づき

広場の周りに施設が集まっているなど、みんなが共有できる空間があると、つながり・にぎわいが生まれる。

本がある場所(施設)がいろいろあることを知った。さらに増え、本に出会えるエリアとしてのイメージが生まれるとよい。図書館と情報が連携できるとよい。

個々の施設がターゲットとしている世代が限定的であり、相互のつながり・回遊性に乏しいよう感じる。

機能やサービスが知られていない施設、土曜日に閉館している施設など「もったいない」と感じる。芦城公園周辺にカフェなど飲食できる場所が少ないよう感じた。

どこか一ヶ所に機能を集約するとそこだけに人が集まってしまう。各施設を巡る・歩ける「しかけ」が必要。それが本であったらよいのではないか。

地域資源と未来型図書館を つなげてどのようなことが できるとよいか

つながり 生きがい

10 of 10 pages

つながり」「生きがい」「働きがい」「学びがい」をキーワードとしており、人育て重要な視点

また、自分で考えるという意識をもつこと、世代を超えてつながり、お互いの良いところを活かしあうなど、それらを通して、一人ひとりの幸せに貢献する施設をイメージしている。

施設間のつながり

人と施設の関係はどうなっているか

市民が主役

世代を超えてつながる！（ごちゃまぜ）

施設の強みを活かすことを考える

継続的に活用される施設

小さな施設が見つけにくくもったいない

知らないかったよい機能やサービスがある

大人も子どもも一緒に絵本館に行くといいな

本を読みながらゆっくりお茶ができる空間がいい！

広場の周りに施設が集まっているとよい

芦城公園周辺にカフェがあるといいなあ

公園内にベンチがあるといいなあ

各施設はバラけずに連携している方が良いのでは

エリア合体のコンセプトが揃っていると人が来やすい神保町のような本屋街

昔にぎわいのあった場所が閑散として寂しい

駅近の人通りが少なくてもったいない

本や情報、つながりの場が町中にいるとエリアの価値が高まる

各施設を巡る仕掛けや本がある

統一されたマークがある情報発信

世代に関係なく利用できる施設があるといいなあ

高架下を発信源としてもっと有効活用できるのでは？

施設間のつながりが弱いのでつなぐ機能があるといいなあ

駅近で人通りがもっとあるといいな

情報発信の拠点としてラジオ局をもっと活用できるのでは

施設前に無料駐車場があると利用しやすい

いろんな場所（町家文庫、おけいこ座）にあった本をデータ化してほしい

※写真やまち歩きでの気づきの吹き出しあは、その場所と一致しない場合があります。

未来型図書館を通して人と地域のウェルビングが実現するまちこまつマップ

情報をつくる、 情報からつくる

小松市に存在する（もしくは足りない） 地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩きの気づき

産学官問わず、市域内の情報が共有・発信できていない課題がある。

こまつまちづくり交流センターが市民活動を支える中間支援組織であることや、ライブハウス機能を持つ市民交流プラザに店頭チラシがないため、施設概要や料金を知っているメンバーがないなかった。

届いていない・知られていない情報（施設、イベント）
があることは、非常にもったいない。

情報の集約・編集とともに、連絡ツールを整えないと、連携を進めるにあたって支障があるのでないか。

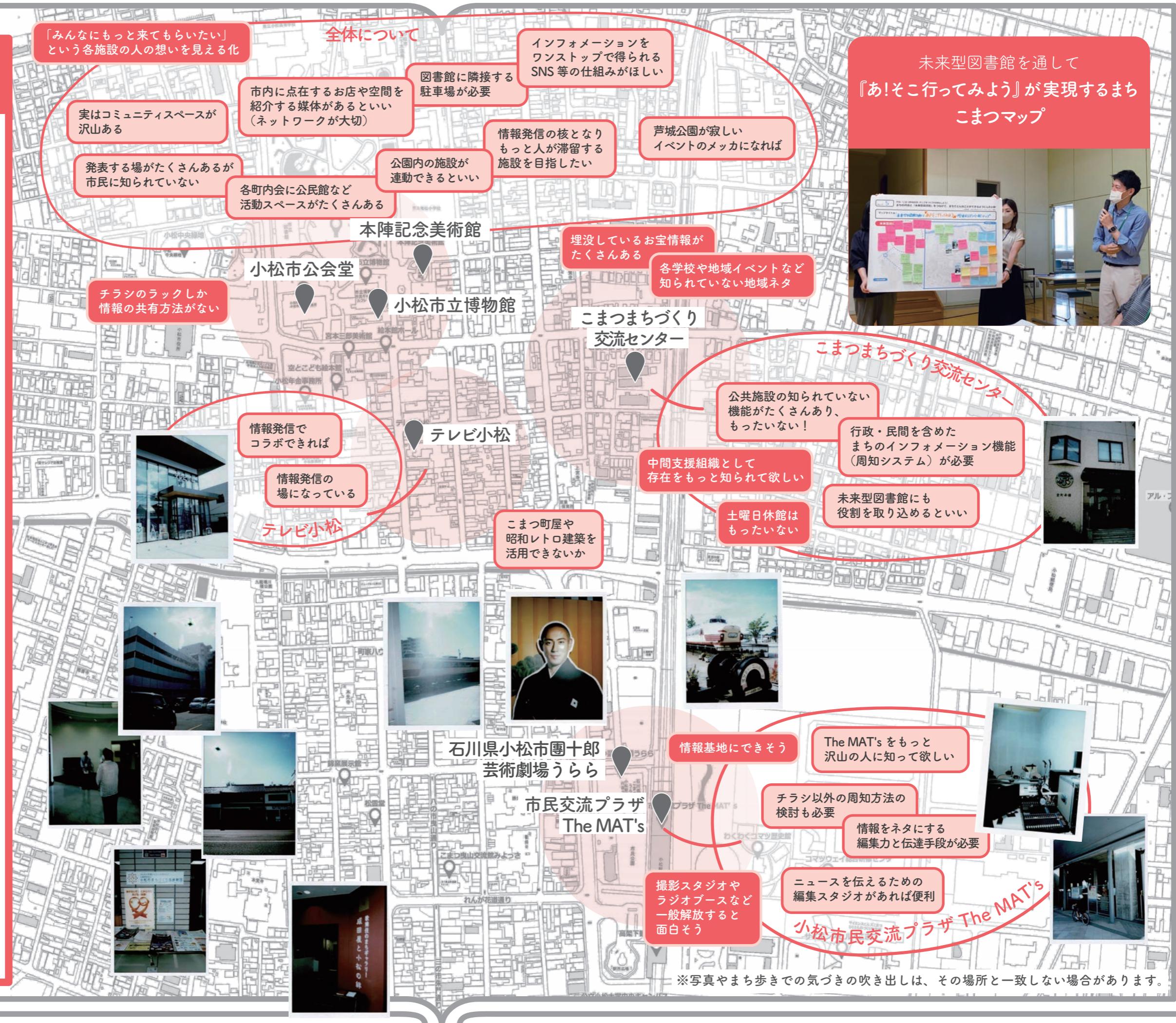
地域資源と未来型図書館をつなげてどのようなことができる

たくさんの人人が関わっていけたら
よいサービス機能（アイデア）

- ・情報を持活かす
 - ・各地のお宝情報を集めるサービス
 - ・まちの情報を発信するサービス(館内・WEBなど)
 - ・広報・メディア・SNSなどを集約した配信アシリサービス
 - ・行列ができるイベントにするための、チラシのつくり方動画の配信方法など、広告手段における養成講座+機材スタジオの完備
 - ・本を読んだあとにその体験ができるサービス(ex料理など)

どう地域資源を活かすか

小松には魅力がたくさんあるのに知られていないので、様々な施設を知れる場所にしていこうというコンセプト。
未来型図書館の中では、様々な施設の情報を集めて、施設同士をつなぐハブのような機能をもたせる必要がある。



未来型図書館を通して 『あ!そこ行ってみよう』が実現するまち こまつマップ



小松市に存在する（もしくは足りない）
地域資源（ヒト・モノ・コト・場所）を見つける

まち歩きの気づき

利用者のターゲット層などが限定されている施設が多い中、コミュニティスペースとんとんひろばでは、子育てや介護の相談、各種研修会の会場などとして利用されている。利用者は学生や子育て世代、高齢者など多様な世代が集い、出会い、つながれる場所として機能している。

人の出会いや心の拠り所になるような場所がまちの至る所に点在している。

利用方法などがわからない、知られていない施設が多いように感じる。（利用料金・利用できる時間帯・利用可能な対象者など）それぞれの施設で完結している印象があり、他の施設とのつながりや交流を持たせるなど、まちや地域全体で相乗効果を生み出せるような仕組みなどが必要。

地域資源と未来型図書館を
つなげてどのようなことが
できるとよいか

♥ ラブな出会い	中の様子がわかりやすく もっと開かれた空間
郷土史、小松の歴史 自分で買えない 本に出会える	誰もが使いやすく 行きやすいアクセス
過去があるから 未来がある	しゃべりあって 何でもできるスペース
小松を知りつくした 人に出会える！	観光名所・食事処

どう地域資源を活かすか

ターゲットを限定せず、子どもからシニアまで様々な世代が混ざり合い、新たな出会いや交流・つながりが生まれる場所にしたい。

また、小松の歴史・郷土史などにも触れることができ、過去からのつながりを感じながら、未来を描いていける場所であってほしいというイメージ。

全体について

今ある施設に機能をプラス
周遊バスがあるといい

まちを歩く人が少なく
各施設利用者が少ない

子どもから大人まで
集まれる
スペースがあれば

全てが一ヶ所に集まれば
出会い、交流、つながりが
できれば、各施設に活気が生まれる？

一つ一つは素敵で魅力的！
一ヶ所にまとめるとなも集まりやすいのでは

人的交流が起こる
仕掛けがあるといい

将来的に図書館、絵本館、
博物館が一つに集約できれば

小松市立図書館

小松中央緑地

芦城公園

小松市立博物館

小松市立博物館

絵本館ホール

空とこども絵本館

空とこども絵本館

テレビ小松

テレビ小松

コミュニティスペース
とんとんひろば

コミュニティスペース
とんとんひろば

未来型図書館を通して
出会い、交流、つながりが実現するまち
こまつマップ

1Fホールは誰でも借りられる
写真展を実施していた

広くてすっきりしているが
活気がなく残念

いろいろ世代が過ごせる空間が
分かれてもいいのでは
(子ども、学生、仕事)
それが気を使わず過ごせるといい

親同士の
出会いの場

階段下の絵本の並びが
斬新でよかった

小さな子でも安心して過ごせる
木のぬくもりが暖かい

コンサートができる

図書館内にラジオ局とつながって
発信できるスタジオがあって
音楽が流れる図書館になれば

約31年前からの
子供歌舞伎のDVDが
各町内分見られる

大きな階段やスツールなど
腰掛けるスペースがたくさん！
思い思いの場でくつろげる

予約をして利用できる
自分で調理したり食べたりできる
毎週イベントがあり、口コミで
利用者が広がっている

子育て相談、健康相談など
多様な人のつながりの場
ホッとできる場となっている

親子でのんびりと過ごせる

隠れ家的なスペース

※写真やまち歩きでの気づきの吹き出しは、その場所と一致しない場合があります。